安全教育の効果測定に関する基礎研究—Ⅲ

正田 亘 (立教大学) ○藤家美奈子・武藤敬子 (東京電力)

A Study of Measurements for Safety Educational Effects (Ⅲ)

W. Masada (Rikkyo University) ○M. Fujiie・K. Muto (Tokyo Electric Power Company)

1. はじめに

第1報、第2報で述べたとおり、原子力発電所の運転員を対象として、よりよい安全教育を行うことを目的に、安全教育の効果測定の研究を実施している。

今回は、現在までに得られた結果の一部について、その概要を報告する。

2. 概略

原子力発電所の運転員を対象に、①安全性格検査、②安全態度調査、③集団雰囲気調査、④NRK方式セーフティマネージメント診断、の4つの調査を実施し、その結果をフィードバックすることにより安全教育を実施した。また、フィードバックは、4チームに3通りの方法で実施した。

②の安全態度調査は、各々11項目からなるAスケールと、Bスケール(表1参照)で構成されており、教育の前後で安全態度値を測定し教育の効果を見た。

本報では、この結果を中心に報告するものである。

3. 結果

1) 職位(グループ)別安全態度の変化

原子力発電所の運転員は、当直長、当直副長、主任、副主任、主機操作員、補機操作員、により構成されている。そしてその仕事内容は、職位によって異なっている。そこで、

- (a) 管理的職位である当直長・当直副長、
- (b) 運転操作の中心となる主任・主機操作員、
- (c) パトロールなど現場ワークが多い副主任・補機操作員、といった3つの職位グループに分け、安全態度の変化の差を見た(表2参照)。

2) フィードバック別安全態度の変化

先に述べたとおり、フィードバックは3通りの方法で実施した。(a) 対面フィードバック2回、(b) 対面フィードバック1回、(c) 資料の送付のみ、といったフィードバックの相違による、安全態度の変化の差を見た(表3参照)。

また、安全態度得点により被験者を3群に分け(成績の良い順に、GOOD群、MEDIUM群、POOR群)、全体に占める人数の推移をみた(表4参照)。

本結果を踏まえ、さらに詳細な分析を行い、尺度づくり、安全教育の体系化につなげていく。

表 1 安全態度調査票

____ 班：氏名 _____

次の項目を読んで、あなたが特に賛成の項目、反対の項目を各一つずつ選び、その番号を下の ☐ に書き入れて下さい。

- 1 タバコをすいながら車を運転しない
- 2 廊下には、ワックスを十分にぬる
- 3 泳ぐ時間があまりないときは、暑がえたらすぐ海に飛び込む
- 4 随時で警報機がなりはじめたら、電車がまだ見えなくても、すぐ渡るのをやめる
- 5 スケートをするときは、必ず手袋をはめる
- 6 いそいでいるときは、少々制限速度をオーバーして車を運転する
- 7 ストープのまわりにかこいをしておきさえすれば、子供がストープの近くへ行っても危なくない
- 8 非常に暑いときは、生水でも飲む
- 9 遊び場がないところでは、子供を道路で遊ばせる
- 10 いくら寒くても、ポケットに手を入れて歩かない
- 11 就寝前には必ずガスの元栓をしめる

賛 成	☐
反 対	☐

____ 班：氏名 _____

次の項目を読んで、あなたが特に賛成の項目、反対の項目を各一つずつ選び、その番号を下の ☐ の中に書き入れて下さい。

- 1 外出のとき、就寝のときは必ず火の元を確かめる
- 2 赤ちゃんの顔までふとんをかけない
- 3 道を歩くときは、何人も横にならなくて歩かない
- 4 廊下にはいろいろな物を置いておかない
- 5 いくら寒くてもポケットに手を入れて歩かない
- 6 ストープのまわりにかこいをしておきさえすれば、子供がストープの近くへ行っても危なくない
- 7 廊下には十分ワックスをぬる
- 8 工事中のビルの下が通行止めになっていなければ通りぬける
- 9 睡眠不足でもいそぎの用事のあるときは車を運転する
- 10 湖上、池の上などで立ち上って、こき手の交響をする
- 11 遊泳禁止のところでも、泳ぎやすそうでも誰も見ていなければ泳ぐ

賛 成	☐
反 対	☐

表 2 職位（グループ）別安全態度

表 3 フォードバック方式別安全態度 (賛成)

表 4 GP群別の態度 (全体)